今年度の国有林の見回り隊が終了しました！

令和４年度に発足した「ニホンジカ捕獲応援（国有林の見回り隊)」が３年目に入り、今年度は５月 30 日に遠野市、遠野猟友会が主催する安全講習会に支署職員 15 名、森林環境保全整備事業（東恩徳国有林）を契約している（株）昭林　遠野営業所職員４名の 19 名が安全講習を受講し、スタートしました。これまでの捕獲頭数は、発足年度０頭、５年度３頭、今年度は 10 月 31 日までの活動期間中に９頭を捕獲しました。

ここで「ニホンジカ捕獲応援（国有林の見回り隊)」について紹介します。

遠野市は、農作物被害対策として、農地周辺での捕獲向上を図るための「ニホンジカ捕獲応援隊」を設置し、狩猟免許を持たない農家（応援隊）が狩猟免許を所有する（実施隊）の補助者として活動しています。

遠野支署では、このような活動を、森林被害が増加している国有林内で運用できないか遠野市、遠野猟友会と協議を行い、令和４年度に「国有林の見回り隊」を発足しました。見回り隊は、遠野市主催の安全講習を受講し補助者として認定された者に限ります。補助者は、ワナの管理と見回りを行い、シカの捕獲を発見したら、捕獲実施者（猟友会）に報告し、個体を処理してもらうという活動です。

今年度の「囲いワナ」は、請負事業体の通勤路として利用する琴畑林道沿いに 3 基、六甲牛山の下方に位置し、幼齢木保護チューブを設置した住吉国有林 19 林班に２基設置し、安全講習会の翌日（31 日）から餌による誘引を始めました。昨年度は、シカの警戒心を解くために、112 日間の誘引期間を設けましたが、猟友会からの助言で今年度は、シカが餌によってきたことを確認できたら、すぐに囲いワナを設置することとしました。

給餌（鉱塩、ヘイキューブ）を始めて、12 日目にシカの誘引が確認されたため、猟友会と相談し、10 月 26 日に囲いワナの捕獲をスタートしました。今年度１頭目の捕獲は、７月 10 日に職員が巡視含め、見回りに行ったところメスジカの捕獲を確認、猟友会に報告し個体処理を行ってもらいました。

今年度は、１ワナに親子のシカが捕獲されたり、オスジカがワナの上から逃げたりということがありました。さらには、逃げてすぐに、同クラスのオスジカを捕獲するなどいろいろなことがあった活動でした。

また、10 月 23 日に捕獲した個体は、遠野市が国有林野内に設置した大型排水管を利用した個体残渣処理設備に、投入することができました。

誘引餌については、バケツに塩水をいれて誘引することも効果的であると聞き、試したところ、塩水を飲むところがセンサーカメラに映っており、誘引のひとつとして効果的であることが確認できました。

引き続き、個体数の管理として、シカ捕獲について遠野市、遠野猟友会と協力しながら進めていきたいと考えています。

（報告：森林技術指導官　尾留川）